

ラウンドテーブル グループA-1: シラバス

（文責：神村初美）

グループA-1ではまず、各参加者が抱える、シラバスに関連した課題について提起していた
だき、その後、参加者間での意見交換を重ね、議論を深めた。

1) 介護の目的別日本語教育の構築の必要性

1-1) シラバス作成の基礎となる以下を提案したい

①介護の日本語版JLPTの創設（案）

- ・外国人介護従事者の日本語教育に当たり、国家試験を受験しない場合を想定した、日本語教育支援を議論すべき
- ・介護の現場で本当に必要な日本語が明確化されていない。
- ・日本語教育としては、日常生活レベルの日本語でいい。応用がきくから
- ・応用がきかない部分は、介護の専門用語、しかし、それはOJTで行うべきもの。理論と実践とを一緒に行った方が覚えやすいから
- ・上述の議論に関し、どういうシラバスで、何を、どう教えるのかといった明確な指標がない

②介護の日本語教育としてのケーススタディ教材の開発（案）

- ・介護福祉士国家試験（以下国家試験）は、キャリアパスさえあれば、合格できる
- ・介護現場における「声かけの日本語」はあまり有用ではない
- ・介護の日本語のテキスト作った経験から、どの場面のフレーズもある程度決まっているとわかった。「いいですか」でも終われる場合もあるし、問題は起こらない
- ・介護現場で本当に必要とされる日本語教育とは、「緊急時の対応のための日本語」と「申し送りのための口頭運用能力」である
- ・その場で、どうアクションを起こすことができるかが大切、その事象を報告できるのかが重要となる
- ・臨機応変な対応能力と分かりやすく伝える日本語の力が必要とされている
- ・その際、介護の専門家との協働は必須

2) 介護の日本語教師養成の必要性

2-1) 介護の日本語教師の不足に対する懸念

- ・地方では既に起きていること
- ・外国人介護人材のニーズがあり、日本語教師を派遣したくても、対応できる教師がいない
または、分からないからと、やりたがらない
- ・これからますますニーズは増えるものと思われるため、早急な対応が必要

3) 技能実習制度での「介護」の導入に対する不安

- ・受け入れ教育の枠組みに対する不安がある
- ・どのレベル どこでするのか 誰がするのか 情報がほしい

その後、個別の事例についての案件を愚弟的に提示していただき、参加者間での意見交換を行うとともに、課題解決につながる各種の提言があった。以下に紹介する。

4) 個別の事例からの案件

4-1) 日本語0初級から介護学科へ進級する留学生への対応について

①シラバス作成について、なにを、どう、行えばいいのかわからない

- ・橋渡しの介護の専門日本語教育として、専門語彙解釈を中心に行うのはどうか

4-2) 在住外国人に対する介護の日本語教育

①基礎学力が低いため、どうしたらいいのか

- ・コースデザインを多用にすべし
- ・無理なくやっていける内容がいい

②シラバスをどうしたらいいのかを課題である

- ・介護職員としての適性はあるはずなので、キャリアパスとしての教育を主軸として行うのはどうか
- ・介護現場でキャリアパスはおおむね以下のような流れとなる
 - ①シーツ交換⇒②食事介助⇒③口腔介助⇒③移乗⇒④入浴⇒⑤排せつ介助（一人だけで介助するので、褥瘡の確認等の技術や拘縮の専門知識等が知識がいる）⇒⑥夜勤

4-3) EPA候補者に対する学習支援

<具体的な背景>

- ・EPA介護福祉士候補者 5名 12月からの受け入れ レベルは異なる
- ・今現在、JICWELSのテキストを使用し、N2を目指している
- ①どういった日本語の授業内容がいいのか
 - ・橋渡しの介護の専門日本語教育として、専門語彙解釈を扱うとなどがいいのでは

4-4) 障害ヘルパーで配偶者ビザのフィリピン・ベトナム人に対する漢字学習支援について

<具体的な背景>

- ・障害ヘルパー 配偶者ビザのフィリピン・ベトナム人外国人介護従事者
- ・「自薦ヘルパー制度 手引き」を使った指導を日本人職員から受けている
- ・利用者とのコミュニケーションが難しいといわれた 理由は、お年寄り滑舌がわるいからよく聞き取れないと
- ①生活のことば（例 佃煮）をどう教えた方がいいのか
 - ・実物が一番わかりやすい 目で見て覚える
- ②試験を受けたい人向けに漢字に着目した教材をつくりたい、自宅での自学自習教材がいいと思う、しかし、どう整理をしたらいいのかわからない
 - ・「耳と目で覚える介護の漢字」という自学自習教材をかつて使用した 有効だった つかって見たらどうか
- ③外国人ヘルパーを指導する日本人職員に何を、どうつたえていいのかが分からない
 - ・一緒に課題を共有するところから始めてはどうか。 以上